

ダイアコート® 軟膏0.05%・クリーム0.05%

ドレニゾンテープ4μg/cm²

ステロイド外用薬のランク

2019年8月現在

ランク・薬効	一般名	主な製品名	製造・販売会社
ストロンゲスト (I群)	0.05% クロベタゾールプロピオン酸エステル	デルモベート	GSK
	0.05% ジフロラゾン酢酸エステル	ダイアコート	帝國
ペリastroング (II群)	0.1% モメタゾンフランカルボン酸エステル	フルメタ	塩野義
	0.05% 酪酸プロピオン酸ベタメタゾン	アンテベート	鳥居
	0.05% フルオシノニド	トプシム	田辺三菱
		フルオシノニド軟膏・クリーム0.05%[テイコク]	帝國-日医工
	0.064% ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	リンデロンDP	塩野義
	0.05% ジフルブレドナート	ベタメタゾンジプロピオン酸エステル軟膏0.064%[テイコク]	帝國-日医工
		マイザー	田辺三菱
	0.1% アムシノニド	ピスターム	帝國-日医工
0.1% 吉草酸ジフルコルトロン	テクスメテン	佐藤	
	酪酸プロピオン酸ヒドロコルチゾン	ネリゾナ	バイエル
ストロング (III群)	0.3% デブドロンプロピオン酸エステル	パンデル	大正
	0.1% プロピオン酸デキサメタゾン	エクラー	久光、鳥居
	0.12% デキサメタゾン吉草酸エステル	メサデルム	岡山大鶴
		ポアラ	マルホ
	0.12% ベタメタゾン吉草酸エステル	ベトネベート	GSK-第一三共
	0.025% フルオシノロンアセトニド	リンデロンV	塩野義
ミディアム (IV群)	フルコート	田辺三菱	
	0.3% 吉草酸酢酸プレドニゾン	リドメックス	興和
	0.1% トリアムシノロンアセトニド	レダコート	アルフレッサファーマ
	0.1% アルクロメタゾンプロピオン酸エステル	アルメタ	塩野義
	0.05% クロベタゾン酪酸エステル	キンダベート	GSK
		クロベタゾン酪酸エステル軟膏0.05%[テイコク]	帝國-日医工
	0.1% ヒドロコルチゾン酪酸エステル	ロコイド	鳥居
0.1% デキサメタゾン	グリメサゾン	藤永-第一三共	
	オイラゾン	日新	
ウィーク (V群)	0.5% プレドニゾン	プレドニゾン	各社
		プレドニゾンクリーム0.5%[テイコク]	帝國-日医工

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン作成委員会：©日皮会誌 128(12)：2431-2502, 2018(改変)

テープ剤	一般名	主な製品名	製造・販売会社
ストロング (III群)	フルドロキシコルチド	ドレニゾンテープ	大日本住友-帝國

記載されている薬剤の使用にあたっては各製品の添付文書をご参照ください。

阿曾三樹：日本医事新報 3255 8-11；1986

TEIKOKU
SEIYAKU CO., LTD.

製造販売元
帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地

〈製品情報お問い合わせ先〉
医薬営業部 製品情報室
TEL: 0120-189-567
受付時間：月～金 9:00～17:30(土日、当社休日を除く)
http://www.teikoku.co.jp

DIA-05-1-1907
〔2019年7月作成〕 OSA 10 MPB

ステロイド外用薬の選択

現在、ステロイド外用薬のランクは、『アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018』において、ストロングスト(I群)、ペリーストロング(II群)、ストロング(III群)、ミディアム(IV群)、ウィーク(V群)の5段階に分類されている。患者個々の皮疹の重症度に見合ったランクのステロイド外用薬を選択し、必要な量を必要な期間、的確に使用することが重要である。

	皮疹の重症度	外用薬の選択
重症	高度の腫脹/浮腫/浸潤ないし苔癬化を伴う紅斑、丘疹の多発、高度の鱗屑、痂皮の付着、小水疱、びらん、多数の掻破痕、痒疹結節などを主体とする	必要かつ十分な効果を有するペリーストロング(II群)ないしストロングクラス(III群)のステロイド外用薬を第一選択とする。痒疹結節でペリーストロングクラス(II群)でも十分な効果が得られない場合は、その部位に限定してストロングストクラス(I群)を選択して使用することもある
中等症	中等度までの紅斑、鱗屑、少数の丘疹、掻破痕などを主体とする	ストロング(III群)ないしミディアムクラス(IV群)のステロイド外用薬を第一選択とする
軽症	乾燥および軽度の紅斑、鱗屑などを主体とする	ミディアムクラス(IV群)以下のステロイド外用薬を第一選択とする
軽微	炎症症状に乏しく乾燥症状主体	ステロイドを含まない外用薬を選択する

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン作成委員会：©日皮会誌：128(12)：2431-2502, 2018

参考－米国家庭医療学会ガイドライン

ステロイド外用薬は7ランク(I. ultra high potency, II. high potency, III. medium to high potency, IV-V. medium potency, VI. low potency, VII. least potency)に分けられており、ステロイド外用薬のランクと治療可能な疾患が示されている。

局所ステロイド外用療法で治療可能な疾患		
High-potency steroids (ランクI～ランクIII)	Medium-potency steroids (ランクIV・V)	Low-potency steroids (ランクVI・VII)
<ul style="list-style-type: none"> ● 円形脱毛症 ● アトピー性皮膚炎(抵抗性の) ● 円板状エリテマトーデス ● 角質増殖性(過角化)湿疹 ● 扁平苔癬 ● 硬化性苔癬 ● 慢性単純性苔癬 ● 貨幣状湿疹 ● ツタウルシ皮膚炎 ● 乾癬 ● 重症手湿疹 	<ul style="list-style-type: none"> ● 肛囲皮膚炎 ● 皮脂欠乏性湿疹 ● アトピー性皮膚炎 ● 硬化性苔癬(外陰部) ● 貨幣状湿疹 ● 疥癬(駆虫薬治療後) ● 脂漏性湿疹 ● 重度の皮膚炎 ● 重度の間擦疹(短期間) ● うっ滞性皮膚炎 	<ul style="list-style-type: none"> ● 皮膚炎(おむつ) ● 皮膚炎(眼瞼) ● 皮膚炎(顔面) ● 間擦疹 ● 肛門周囲炎

Ference JD, et al.; Am Fam Physician. 79(2): 135-140, 2009

監修：順天堂大学大学院医学研究科 皮膚科学・アレルギー学 教授/アトピー疾患研究センター副所長 **池田 志孝** 先生